

<特集「受動表現」>

アゼルバイジャン語の受動表現* Passive Expression in Azerbaijani

バギルリ・ナルギズ
Nargiz Baghirli

京都大学大学院文学研究科言語学専修
Department of Linguistics, Faculty of Letters, Kyoto University

要旨: 本稿の目的は、特集「受動表現」(『語学研究所論集』第14号, 2009, 東京外国語大学) における10個のアンケート項目に対するアゼルバイジャン語のデータを提供することである。

Abstract: The purpose of this paper is to offer the Amharic data for the question of 10 phrases for the special volume of the *Journal of the Institute of Language Research* 14, which focuses on the cross-linguistic study of ‘passive expressions’.

DOI: <https://doi.org/10.15026/0002000379>

キーワード: チュルク諸語, 膠着型言語, アゼルバイジャン語, 受動表現

Keywords: Turkic languages, agglutinative languages, Azerbaijani, passive expression

1. はじめに

アゼルバイジャン語は、系統的にはチュルク語族のオグズ語群に属し、アゼルバイジャン共和国の他、イランの北西部と、ロシア連邦・ダゲスタン共和国の一部の地域でも話されている言語である。このうち、アゼルバイジャン共和国とダゲスタン共和国では公用語としての地位を持つ。

アゼルバイジャン語では受動文の述語動詞には接尾辞 $-il^4$, $-in^4$, $-n$ が付加される¹。動詞の語幹が母音で終わる場合は、接続子音の $-n-$ 又は $-y-$ が接尾辞 $-il^4$ の前に現れる。また、これらの接辞は再帰形の接辞と同形である。下記に挙げるアゼルバイジャン語の受動文は、通常行為者が明確でない場合に用いられ、明確な場合は能動態が用いられる。

2. データ

(1) アイスンはバーヌに叩かれた。

<i>Aysun</i>	<i>Banu</i>	<i>tərəf-in-dən</i>	<i>vur-ul-du.</i>
Aysun	Banu	side-POSS.3-ABL	beat-PASS-PST



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

* 本稿の執筆にあたり、筆者(女性, 20代, アゼルバイジャン共和国・ギョイチャイ出身)のほか、Saida Mammadli氏(女性, 20代, アゼルバイジャン共和国・バクー出身)の協力を得た。また、日本語や形式等に関して、千田俊太郎と岩崎崇雅(敬称略)の協力を得た。ここに記して感謝申し上げる。なお、本文の文責は、全て筆者にあることはいままでもない。

¹ $-il^4$, $-in^4$ の数字は、母音調和に応じて4つの母音(i, i, u, ü)のいずれかをとることを示している。

(2) アイスンはバーヌに足を踏まれた。

<i>Aysun-un</i>	<i>ayağ-ı</i>	<i>Banu</i>	<i>tərəf-in-dən</i>	<i>tapdala-n-dı.</i>
Aysun-GEN	foot-POSS.3	Banu	side-POSS.3-ABL	step_on-PASS-PST

受動文の行為者を明示するためには *Banu tərəfindən* が用いられ、与格や奪格などの格形 (**Banu-ya*, **Banu-dan*) が行為者の標示に用いられることはない。 *Banu tərəfindən* は、日本語に直訳すると「*Banu* 側から」を意味する。一方で *Banu* に属格標示をつけた *Banu-nun tərəf-in-dən* (*Banu-GEN side-POSS.3-ABL*) 「*Banu* の側から」が受動文で用いられた場合、前者の意味のほか、*Banu* の側から *Banu* 以外の第三者によってある行為が行われたという解釈もあり得る。ただし、人称代名詞が用いられる場合は、必ず属格標示で現れる。例えば、*mən-im tərəf-im-dən* (*I-GEN side-POSS.1SG-ABL*)。

(3) アイスンはバーヌに財布を盗まれた。

<i>Aysun-un</i>	<i>pulqabı-sı</i>	<i>Banu</i>	<i>tərəf-in-dən</i>	<i>oğurla-n-dı.</i>
Aysun-GEN	wallet-POSS.3	Banu	side-POSS.3-ABL	steal-PASS-PST

(2) と (3) の主語は、日本語と違ってそれぞれ「足」と「財布」である。アゼルバイジャン語の場合、日本語のように所有者のみを受動文の主語にすることはできず、「彼女の足」や「彼女の財布」のように非所有物（者）を主語にすることしか許されない。

(4) 昨日の夜、私は赤ん坊に泣かれた。それでちっとも眠れなかった。

(a)

<i>Dünən</i>	<i>gecə</i>	<i>uşaq</i>	<i>ağla-yır-dı.</i>	
yesterday	night	child	cry-PROG-PST	
<i>O</i>	<i>səbəb-dən</i>	<i>heç</i>	<i>yat-a</i>	<i>bil-mə-di-m.</i>
That	reason-ABL	at_all	sleep-CVB	can-NEG-PST-1SG

(b)

<i>Dünən</i>	<i>gecə</i>	<i>uşaq-ın</i>	<i>ağla-ma-sı-na</i>	<i>məruz</i>	<i>qal-dı-m.</i>
yesterday	night	child-GEN	cry-NMLZ-POSS.3-DAT	expose	stay-PST-1SG
<i>O</i>	<i>səbəb-dən</i>	<i>mən</i>	<i>heç</i>	<i>yat-a</i>	<i>bil-mə-di-m.</i>
that	reason-ABL	I	at_all	sleep-CVB	can-NEG-PST-1SG

日本語と違って、アゼルバイジャン語では受動文は迷惑の意味をもたない。(4) は「(a) 子供が泣く」あるいは、「(b) (私は) 子供の泣いているところ (状況) に晒された」と表現可能であるが、(a) の方がより自然である。(b) の場合、「迷惑」のニュアンスが加わるが、あまり使用されない。

(5) 新しいビルがアイスンによって建てられた。

<i>Yeni</i>	<i>bina</i>	<i>Aysun</i>	<i>tərəf-in-dən</i>	<i>tik-il-di.</i>
new	building	Aysun	side-POSS.3-ABL	build-PASS-PST

この文では, *Aysun* に属格表示をつけた *Aysun-un tərəf-in-dən* を代わりに使うことはできない. 属格標示を付けた (*Aysun-un tərəf-in-dən*) 場合は, 2 と同じく場所の意味が強く現れるため, 属格標示が付かない場合と異なる意味になる.

(6) カナダではフランス語が話されている.

<i>Kanada-da</i>	<i>Fransız</i>	<i>dil-i</i>	<i>danış-ıl-ır.</i>
Canada-LOC	French	language-POSS.3	speak-PASS-PRS

(6) の例では, 動詞が受動態で現れることが一般的である.

(7) 財布がアイスンに盗まれた.

<i>Pulqabı</i>	<i>Aysun</i>	<i>tərəf-in-dən</i>	<i>oğurla-n-ıb.</i>
wallet	Aysun	side-POSS.3-ABL	steal-PASS-PRF

(8) 壁に絵が掛けられている.

(a)

<i>Divar-a</i>	<i>şəkil</i>	<i>as-ıl-ıb.</i>
wall-DAT	picture	hang-PASS-PRF

(b)

<i>Divar-dan</i>	<i>şəkil</i>	<i>as-ıl-ıb.</i>
wall-ABL	picture	hang-PASS-PRF

(8a, b) は, 動詞接尾辞 *-ıb* が用いられ, 結果状態を表している. また, アゼルバイジャン語では「絵」を *şəkil* 以外に *rəsm* として訳すこともできるが, *şəkil* として訳した人が多数であったため, 本稿ではこの語を用いることとした.

(9) アイスはバーヌに／から愛されている.

<i>Aysun</i>	<i>Banu</i>	<i>tərəf-in-dən</i>	<i>sev-ıl-ır.</i>
Aysun	Banu	side-POSS.3-ABL	love-PASS-PRS

この文に, *Banu* に属格表示をつけた *Banu-nun tərəf-in-dən* を代わりに用いると少し不自然に感じられる.

(10) アイスはバーヌに／からこないでと言われた.

<i>Aysun-a</i>	<i>Banu</i>	<i>tərəf-in-dən</i>	<i>“gəl-mə”</i>	<i>de-yil-di.</i>
Aysun-DAT	Banu	side-POSS.3-ABL	come-PROH	say-PASS-PST

(10) では, 与格で現れている *Aysun-a* を主格 (*Aysun*) に変えた文は容認されない. 主格の疑問詞 “*nə*” 「何が」を用いた疑問文の答えが “*gəl-mə*” となることや, 対応する能動文の直接目的語であることなどから, この文の主語は “*gəl-mə*” であると考えられる. この他に, 授受動詞の受け手を主格に変えて受動文を形成することもできない. また, この文においても *Banu* に属格標示をつけた *Banu-nun tərəf-in-dən* を代わりに用いると少し不自然に感じられる.

(10 - a) アイスンさんはバーヌさんに呼ばれて、今バーヌさんの部屋に行っています。

Aysun Banu tərəf-in-dən çağır-ıl-ıb,
Aysun Banu side-POSS.3-ABL call-PASS-CVB.PRF

hal_hazırda Banu-nun otağ-in-da-dır:
now Banu-GEN room-POSS.3-LOC-COP

後半の節では、Aysun を再び言及することもできるが、代名詞（3 人称単数）で示すことや全く示さないことの方が自然である。

(10 - b) バーヌがアイスンを呼んで、アイスンさんは今バーヌさんの部屋に行っています。

Banu Aysun-u çağır-ıb,
Banu Aysun-ACC call-CVB.PRF

və Aysun hal_hazırda Banu-nun otağ-in-da-dır:
and Aysun now Banu-GEN room-POSS.3-LOC-COP

略号一覧

1	first person	GEN	genitive	PRS	present
3	third person	LOC	locative	PROG	progressive
ABL	ablative	NEG	negative	PROH	prohibitive
ACC	accusative	NMLZ	nominalizer	PST	past simple
COP	copula	PASS	passive	SG	singular
CVB	converb	POSS	possessive		
DAT	dative	PRF	perfect		

執筆者連絡先 : baghirlinargiz@gmail.com

原稿受理 : 2023 年 8 月 5 日